

雄和地域(南部地域)バス利用実態調査(平成18年度実施)の概要について

この調査は平成18年度にまとめられたもので、調査対象は秋田市南部地域を走行している路線バスの岩見三内線、岩見三内日赤線、仁井田四ツ小屋線、雄和線、雄和日赤線、ユージュルとし、10月27日～11月2日、11月6日～11月12日に調査員が路線バスに乗り込み、乗降人数をカウントして実態を調査したものである。

また、平成19年1月26日から2月2日まで雄和地区、河辺地区の住民に世帯アンケート調査を行い、バス利用の実態や公共交通代替案に対する意識、公共交通に対する意識などを把握したものである。

調査の主な概要は以下のとおりである。

1 利用実態について

(1) ユージュル

ア 高尾ライン

- ・高齢者の利用が多い
- ・8時台と15時台の利用が多く、乗降場所では耕心苑やふるさと温泉である
- ・6時台と19時半以降の便で利用客がほとんどいない

イ ダリアライン

- ・高齢者の利用が多く、8時台と15時台の利用が多い
- ・乗降場所も耕心苑やふるさと温泉である
- ・18時台の便の利用客がほとんどいない

ウ 長者山ライン

- ・利用者の多くが小学生であり、乗降場所は川添小学校が多い
- ・高齢者は他への乗り換えのため、市民センターでの乗降が多い

(2) 雄和線

- ・上りでは朝の便で利用者が多く、平均8人以上であるが、午後は利用者が少ない
- ・下りでは朝の乗客が多く、全般的に利用者は5人以上であり、多い便では10人以上の利用がある

(3) 雄和(日赤病院)線

- ・上りでは市民センターから徐々に乗客が増え、新都市交通広場での降車と日赤病院での降車する目的が多いが、利用者は6人以下と多くない
- ・下りは日赤病院からの帰りの利用客が多く日赤での乗車が多く、乗客は第2便のシルバーエリアまで以外は平均3人と少ない

2 利用実態調査により導き出した公共交通代替案について

御所野ショッピングセンターを乗り継ぎ拠点とし、秋田駅方面へ向かう乗客をまとめて秋田駅東口へ運行することとする。

ユージュルは、利用者が多い区間は定期路線として、それ以外はバスやタクシーのデマ

ンド交通とする。定期路線は循環ではなく、往復運行とする。

この代替案を組み合わせ、効率性を高めて、地域住民の移動手段を確保するものとする。

3 代替案に対する利用意向について

御所野ショッピングセンターを乗り継ぐことに対するバス利用者の利用意向は利用したいとした人が約3割、ほかの手段がなければ利用するとした人が約5割であった。デマンド交通への利用者の利用意向は利用したいとした人が1割強、他の手段がなければ利用するとした人が6割強であった。

4 地域の公共交通に対する住民意識について

公共交通の維持に関する住民意識としては、約6割の人が「できるだけ費用をかけずに、地域で効率的なバスの運行方法を考えていくべき」としており、地域交通に関する話し合いへの参加意識が半数近くあった。

このため、むすびでは、住民との話し合いの場をつくり、住民の意向を踏まえた具体的な運行形態やコストなどについて協議、検討する必要があるものとされた。

なお、調査の詳細については交通政策室HPに掲載している。

http://www.city.akita.akita.jp/city/ur/im/05kotu/mytown_nannbu.htm